

座・ガモールファーム 通信

Vol. 32 | 2025.08.01



テラスで収穫した夏野菜。今年は多様な品種を栽培しています。

夏野菜の収穫がピークを迎えています。

猛暑の候

8月になり大学は夏休みを迎えましたが、ガモールファームはお休み中も活動を行っています。特に夏野菜は今が最も収穫の時ですので、時間のある方はぜひ遊びにきてください。

さて、先日7月27日にはオープンキャンパスが開催されました。こちらではキャンパス農園班の学生が農園を案内するツアーを行っています。学生にとって農園ツアーは普段活動の中で得た知識や体

験をアウトプットできる貴重な機会です。今年度は1年生のメンバーが多いのですが、みんな物怖じせず主体的に取り組んでいる様子が印象的でした。また、この活動では次年度新たに開設する「情報科学部（仮称）」の紹介も行っています。こちらではドローンの操縦や3Dスキャンなどが体験でき、学生も参加者に説明しながら大きな刺激を受けているようでした。

次回は8月23日に開催予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。（山本）



※本ニュースレターは、JST「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点活動の一環として発行しています。座・ガモールファーム通信のバックナンバーを含むプロジェクトの概要は右のQRコードからご覧ください。



今月の活動

キャンパス農園班

猛暑のみぎりでございますが皆様いかがお過ごしでしょうか。7号館3階のテラスでは色とりどりの夏野菜が実をつけています。

さて、7月4日と5日には鴨台盆踊りが開催されました。今年度の鴨台盆踊りでは、キャンパス農園班が地域とのつながりを深める多彩な企画を展開しました。目玉は野菜スタンプを使った団扇の絵付けワークショップ。ピーマンやオクラなど、一部、農園で育てた野菜をスタンプにして、子どもたちが思い思いの模様を描く姿が印象的でした。また、毎年恒例の金魚すくいも大盛況で、地域の方々との笑顔あふれる交流が生まれました。さらに、大学で栽培したミントを活用したミントティーやミントスプレーも販売され、来場者からは「爽やかに癒される」と好評を得ました。これらの活動を通じて、農業の楽しさや自然の恵みを伝えるとともに、地域との絆を深める貴重な経験を積みました。今後も、都市と農をつなぐ架け橋として、持続可能な地域づくりに貢献していきたいです。

キャンパス農園班が展開する「巣鴨芋人プロジェクト」は、巣鴨、滝野川周辺地域で育てたサツマイモを活用し、芋焼酎「巣鴨芋人（すがもいもじん）」を制作し、地域と大学のつながりを創出することを目指す取り組みです。学生と地域住民が協力して栽培を行い、地元の事業者の方々との交流を通じて、地域の課題解決を目指しています。本年度も昨年度に引き続き20個ほどの芋のプランターを配布する予定です。

暑さも本格的になってまいりましたので、熱中症などにはくれぐれも気を付けてお過ごしください。

それでは、また次号でお会いしましょう。（野沢）



金魚すくいの様子

座・ガモールファーム



テラスではブラックベリーも収穫できます

8月に入り暑い日が続いていますが、ガモールファームでは夏野菜の収穫が最盛期を迎えています。テラスではミニトマトやきゅうり、なす、ししとう、ピーマン、ゴーヤといった定番の夏野菜が育っています。また、テラス奥の日陰スペースでは茗荷や明日葉などの山菜も収穫できます。9月ごろになると、ひょうたんやカボチャなども収穫できる見込みですのでどうぞお楽しみに。収穫した野菜は夏休み中も3号館で配布する予定です。また、キャンパス農園班では収穫した夏野菜をより活用できないかというところでもさまざまな企画を考えているようなので、そちらも期待したいところです。

南門広場でもミニトマトやズッキーニ、にんじんなどを育てていますが、こちらは新施設設置に伴い、今月より別の場所へと移動をすることになりました。南門広場でみなさんに収穫をしていただくことができなくなるのは残念ですが、また進展がありましたらお知らせいたします。

埼玉校舎では、レイズドベッドで栽培していた枝豆がたくさん収穫できました。畑の方ではかぼちゃや冬瓜なども栽培しており、秋の収穫も待ち遠しいところです。（山本）

詳細はこちら

座・ガモールファームの詳細はこちらから見るができます。Instagram、note、YouTubeに画像や動画がたくさんあり、Twitterではイベント告知をするのでぜひご覧ください。

